

## 第2回和光ブランド認定推進委員会 会議録（要旨）

日時 平成24年6月22日（金）

16:00～17:55

場所 和光市役所3階 第1委員会室

出席 委員

第1号委員 郭 洋春 委員（立教大学 教務部長・経済学部教授）

第2号委員 富岡 健治 委員（和光市商工会 副会長）※H24.6.1変更

第3号委員 池田 作治 委員（あさか野農業協同組合 和光支店長）

第4号委員 吉澤 茂 委員（㈱スカイ・テクノ 代表取締役）

第5号委員 小野寺 洋子 委員（㈱光英科学研究所 専務取締役）

二宮 真由美 委員（favorite 代表者）

第6号委員 梅沢 直 委員（市民公募）

事務局

市民環境部次長兼産業支援課長 阿部 英之

産業支援課課長補佐 遠藤 秀和

産業支援課産業育成支援担当統括主査 上原 弘之

産業支援課産業育成支援担当主事 岡田 明子

傍聴 0人

司会進行 市民環境部次長兼産業支援課長

1 開会

2 委員長あいさつ

3 議事

(1) 認定スケジュールについて

(2) アンケート結果について

(3) 認定事業実施要綱（案）について

(4) 認定基準（案）について

(5) 応募要領（案）について

(6) その他

4 閉会

## 【議事内容】

### (1) 認定スケジュールについて（事務局）

…実施要綱、認定基準等の整備について議論を重ねて行うため、11月の市民まつりを目途として計画していたのを3月の副都心相互直通運転開始に照準を定めたスケジュールとする。また、前回の会議で指摘のあった和光ブランドの告知記事については、7月1日号の広報わこうで掲載される。

#### 資料2

### (2) アンケート結果について（事務局）

…第2回和光ブランド推進委員会の資料とするため実施した実施要綱、認定基準等のアンケート結果について **資料3**

#### 【問1】和光ブランド認定事業実施要綱（案）について

◆認定の対象範囲	賛成票	意見	採・不
①商品	7	満場一致	採
②技術	5	賛成多数	採
③飲食店メニュー	6	賛成多数	採
④文化財	2	・ブランド認定において、あまり狭めることなく、広く認定をした方がいい	不
⑤自然・景観	2		不

- ・（副委員長）ブランドとは競争された中で出来るもの。継続性があるもの。絞ったほうがいい。
- ・（富岡委員）文化財等はあまり目立ったものがない。神社仏閣等は宗教的なものも絡んでくる。自然や景観はどんどん変わってしまう。
- ・（二宮委員）和光が薦めるもの。誰もが認めるものといったように自信を持って人に紹介できるものとしたら、物に絞ったほうがブランドとして考えやすい。
- ・（池田委員）文化財や自然・景観はおすすめスポット。ブランドとは少し違う感覚がある。
- ・（委員長）ブランドとは主体となるものが維持管理発展していくもの。手にとって多くの人に知らしめることができるもの。文化財や自然・景観は地域資源となって観光育成として活かしていく。文化財・自然・景観への認定先が曖昧になってしまう。
- ・（梅沢委員）文化財・自然・景観が本当に素晴らしいものであれば、ブランドとして認定してもいいのでは。商品だけでなく、ホンダや理研の技術など和光にしかないものがたくさんある。

- ・(委員長) 地域ブランドは街のイメージ。今回は募集するに当たり、対象範囲を絞り、わかりやすく募集しやすいものを考えたい。
- ・(小野寺委員) ホンダや理研の技術などはこれからのブランド認定事業において、目標をもって考えていければいいと思う。
- ・(委員長) 相手があつての認定となる。今後に向けて段階を踏みながら、入りやすいところから、取り掛かっていく。

◆認定の有効期間	賛成票	意見	採・不
① 3年	5	賛成多数 ・継続し発展してもらうためにも、プレッシャーをかけ、見直し、立直しがバランスよく出来る期間 ・時代の流れ、日進月歩は目まぐるしい	採
② 5年	1	・ブランドの名前を維持してもらうためには3年は短い、努力してもらうためにも	不
③ 無期限	1	・その都度、そぐわない場合において取り消せばいい	不

◆登録料	賛成票	意見	採・不
① 取らない	7	満場一致	採
② 5,000円	0		不
③ 10,000円	0		不

◆他薦受付	賛成票	意見	採・不
① 自薦のみ	0		不
② 自薦+他薦	7	満場一致	採

◆認定の対象	賛成票	意見	採・不
① 生産、製造	7	満場一致	採
② 加工	7	満場一致	採
③ 販売	3	→生産、加工と統一	不
④ 開発	6	賛成多数→生産、加工と統一	採

- ・(副委員長) 販売と開発の定義が判断つかない。開発は生産、製造のプロセスなのでは。

- ・（富岡委員）理研の開発が和光の資源となるように。
- ・（池田委員）販売は売られているものをイメージした。
- ・（小野寺委員）販売は店で売られているこだわりのものを広い意味でイメージした。開発は会社の開発力やイメージアップに繋がる認定になる。
- ・（委員長）開発は製品、形になるためのプロセス、販売は売られているものや場所と捉えるならば、生産や製造のカテゴリに入るだろう。

◆対象事業者	賛成票	意見	採・不
①個人（市内事業者）	7	満場一致	採
②法人、団体（主たる事業所・本店）	6	賛成多数	採
③法人、団体（事業所、工場、支店）	4	②と統一	採
④個人（市外事業者、住民票あり）	2	対象者範囲を広くし、素晴らしいものを認定できるように	不

- ・（委員長）範囲を広くしてしまうと和光のものとして成り立たなくなってしまうかもしれない。和光でブランド認定されることが企業や商品のステータスとして広がっていくならば、今後、対象範囲を広げる可能性もありうる。

### 【問2】和光ブランド認定基準（案）について

◆対象分野数	賛成票	意見	採・不
①全ての分野	4	・全体的に網羅されているほうがいい ・全部が完璧でなくていいが、アドバイスできる点があるように	不
②どれかひとつの分野	1	・全部は厳しい	不
③その他	2	・4つの基準を総合的に判断し決定すればいい	採

### (3) 認定事業実施要綱（案）について（事務局）

…アンケート結果に基づき、実施要綱（案）について説明 資料4

- ・（委員長）認定の推薦に当たって、第5条第3項の事業者に申請の意思確認を行う者が明確でない。誰が、をはっきり明記されたほうが

いいのでは。

- ・（事務局）法務担当と調整する。

(4) 認定基準（案）について（事務局）

…アンケート結果に基づき、認定基準（案）について説明 資料5

- ・（梅沢委員）4について、言葉が難しい。もうすこし優しい言葉で表現したほうがいいのでは。
- ・（事務局）専門用語は極力避け、訂正する。
- ・（委員長）認定対象分野数について、どのように定めるか。
- ・（副委員長）アンケート結果にもあるように、全部が100点でなくてもいい。本人たちが気づかなかったいい点をアドバイスできるように。“和光らしさ”にウエイトをおくのはどうか。
- ・（小野寺委員）全部を網羅しているのがいい。足りない点はアドバイスできるように。
- ・（二宮委員）全部が完璧にではなくていい。いいものでもパッケージが貧弱だったりしたときにアドバイスできるように。
- ・（富岡委員）全部は厳しいだろう。
- ・（梅沢委員）全部が平均ではつまらない。どこかが高得点である。ただ、マイナス点があってはならない。
- ・（池田委員）全部は厳しいだろう。和光らしさは大事にし、プラスで特化したものがあればいいのでは。
- ・（委員長）和光ブランドである以上、和光らしさは必要である。評価の仕方としては、4つの基準を総合的に判断して決定することとし、基準は公表するが判断の時は項目にウエイトをおくなどをし、審査を行うようにする。
- ・（副委員長）申請者との対話の機会はあるのか。
- ・（事務局）プレゼンテーションの場は考えている。これからの委員会の中で実際の審査における評価表を考えていく。

(5) 応募要領（案）について（事務局）

…応募に関する応募要領（案）について説明。実施要領の内容を盛込んだものであり、今回の委員会が出た修正点は直す 資料6

- ・（委員長）審査方法について、書類審査とプレゼンテーションの2段階とするのか。

- ・（事務局）応募数にもよるが、今現在はプレゼンテーションのみの審査を考えている。
- ・（委員長）「必要に応じて書類審査を行う」等の文言を入れたほうがいいのでは。
- ・（事務局）付け加え、修正する。
- ・（委員長）注意事項について、市が認定しているのにも関わらず、市が保証するものではないというのはおかしいのでは。
- ・（副委員長）保証という言葉は向かない。市ではなく、申請者各自の責任のもとするほうがいいのでは。
- ・（事務局）修正する。  
また、応募資格の【自薦】【他薦】は【申請者】【推薦者】と修正し、審査方法の4つの観点から総合的に審査します、と加筆する。  
今回の修正箇所は修正後、委員の皆様へ送付する。
- ・（小野寺委員）ブランド認定をするに当たりブランドマークを作成するのか。
- ・（事務局）次回以降、ブランドマークについては協議していく。和光市のイメージキャラクター「わこうっち」や「さつきちゃん」も使用していきたい。

## (6) その他

次回の委員会の日程について

8月9日（木）14：00～（403会議室）

詳細について、後日委員各位へ通知を送付する。